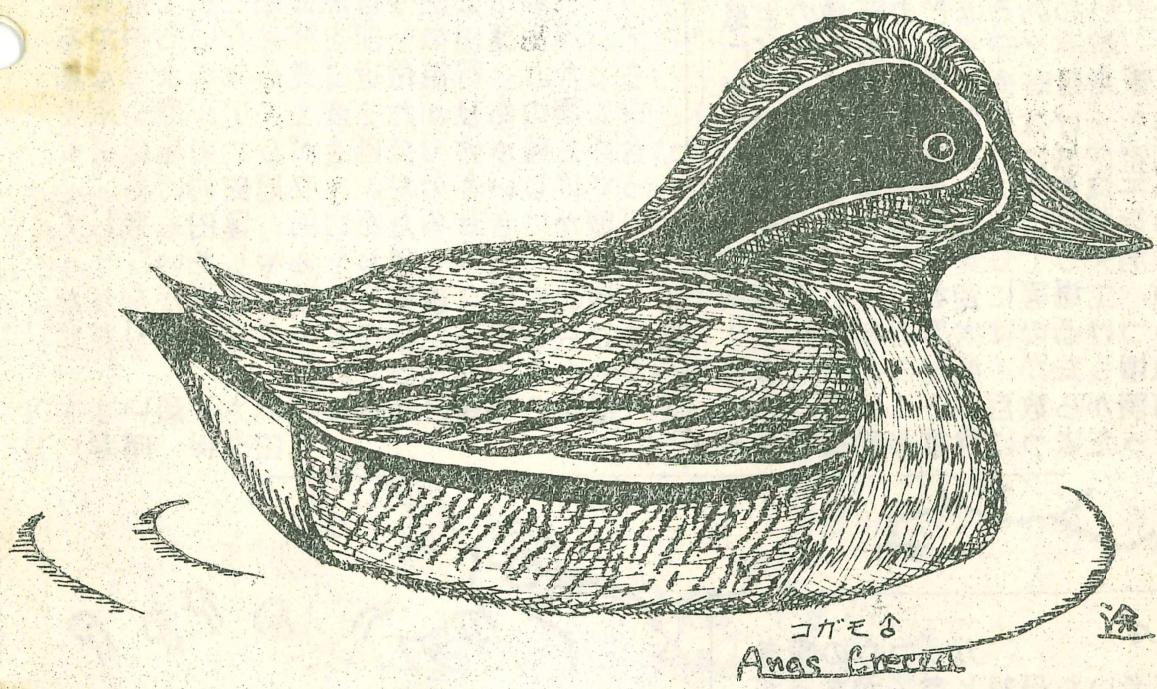


すずがも通信 27

行徳野鳥観察会友の会

1984.9



コガモ
Anas crecca

虫の声

あれ松虫が鳴きだした

チンチロチンチロ
チンチロリン

あれ鉛虫も鳴きだした

リンリンリーンリン

秋の夜長を鳴きとおす
あゝおもしろい虫の声

はあと

- 湿地を残し増そう -
地下鉄東西線から見る妙典（江戸川放水路西側）はアシや蓮根のじゅうたんのようではとつする空間である。この首都圏に残された湿地（蓮田 アシ原）がまたしても消えてしまいそうである。

江戸～昭和初期まで、船橋から葛西にかけての干潟の後背地には塩田が開かれていた。塩の重要拠点であつた。その後開発され、湿田や蓮田になったが、ところどころに沼やアシ原が残されていて、水鳥や多くの動植物の生息地にもなっていた。特に行徳・浦安地区は「世界の新浜」といわれるほど野鳥の生息地でした。新浜を守る会の運動などによって行徳野鳥観察舎ができるが、今やかつてのおもかげは保護区と妙典、原木の市街化調整区域にしか残っていません。東京湾の干潟が1万ha以上残されたようにその後背地である湿田やアシ原も1万ha以上消失してしまった。（湿田は畑、住宅地、工場等に変わり、この地域でイネをみつけるのは大変である）

人口は急増したが、湿地の減少によりサギが数万羽から数百羽と1/100になってしまったように貴重な動植物がた

オオヨシキリ

くさん失われてしまいました。湿地は豊かな生物生产力をもち、なおかつ固有の動植物をかがえています。湿地が乾いてしまうと、これらの動植物は死滅してしまいます。（世界的にも減少しています）

市街化調整区域ということで、かろうじて残った妙典や原木の湿地ですが来年3月に市街化区域に編入されるとのこと（資料参照）。高い地価や都市化（排水問題など）を考えると、私たちにとってすばらしい場所であるアシ原や蓮田をこのまま残しておくことは、むずかしいと思うが、都市公園や自然公園として妙典のアシ原や蓮田の一部を残せないものであろうか。行徳付近に見られるような都市公園のありかたを変え、アシ原や沼を含めた親水性の公園をぜひこの場につくってほしいものだ。又歴史的にも、心を豊かにさせるためにも、蓮田も残してほしい「湿地を残し、ふやしたい」

願わくば、農業や漁業で生活がなりたつ社会環境や生活のしくみをつくりだせないものであろうか。

（湿地の保護と造成にご協力を願います）
(田久保 晴幸)



鳥の昔々

カッコウの嘆き
昔々 年老いた母親と息子があつた。二人は仲良く働き暮しておつた。

初夏のある日のこと、二人は山へ行き薪木を抱っておつた。母親が両手に薪木をかかえている時、急に背中がかゆくなつたので、息子にかいてくれるようにしたのんだ。けれども息子もたくさん薪木をかかえていたので、「岩にでもこすりつけろ。」と言つた。そこで母親はしかたなく岩に背中をこすりつけていたところ、ぐらりと岩がくずれ、母親はガゲからまっさかさまに落ちて死んでしまつた。息子はおどろき悲しんでいるうちに、鳥になつてしまつた。

それでカッコウは初夏のころになると母親のことを思つて『背中を「かこうかこう」と鳴くのだそうな。

（出典 地方不明）



4月8日に大浜さん達のおかげで、東京湾を船でまわりました。新浜の沖も通りましたが谷津と同様、海からは遠く陸のかなたでした。

海上でたくさんのスズガモの群をみました。所々にばつんと海ガモ？もいてカモメ同様、鳥の姿がいつもあるのです。もつとも行き交う船が多くて、ゆっくり休んではいられないようですが……。

ゴミの島 海岸にでられない大工場群
油汚染 人工干潟 本当にいろいろな姿を見ることがで、よかったです。

新浜も東京湾の続きですから、今後ともその変化の様をみつめ続けてゆく必要があると思いました。

（振替の振込用紙から 渡辺 隆一氏）

さえぎりや。

前略 すずがも通信25号が届きました。何か原稿を息子に書かせますと電話でお話ししながら采さずのままで申し訳なく思っています。息子は五月からずっと学校の部活動に追われ、思うように鳥見？（観察の言葉で姓達が覗見をする話がありますが我家は人間様でも花見ならずもっぱら鳥見です。）も出でますねているのです。一でも田久保様は相変わらず精力的なご活躍 薩ながら応援して居ります。6月に入つてシギたちの姿も見えなくなり、原木周辺では、いちめん緑の葦原でオオヨシキリのシマンステージです。近所にアオバズクの巣穴を見つけ、ヒナの巣立を楽しみにしています。又新しい建物には岩ツバメの巣巣をいくつか発見しました。このあたりでは珍しいのでしょうか？

妙典の方は近況いかがでしょうか？

又いつかお目にかかる折を、何か協力出来ることがあつたら連絡を下さい。

とりあえずごめんなさいの葉書です。

（6/15 赤田）



友の会臨時会合議事録

議題：観察舎前の水路の浚渫について

日時：1984年7月22日（土）

14:30～17:00

於：行徳野鳥観察舎図書室

野鳥観察舎 三次主幹より出席した友の会の会員に次のような説明がありました。

1：概要

観察舎前の水路を塩浜橋より上流へ800mにわたって3年計画で行う。施行は葛南土木。

2：理由

地域住民より、水路のヘドロ、悪臭をなんとかして欲しいという嘆願があつたため、排水対策としての意味もあるものと思う。

3：規模

県は川市全部を深くすることを要望しているが、話合いにより、その規模や方法は検討してもらえるものと思う。以上のような説明に対して友の会会員からは千鳥橋のすぐ下の水路の例を見ても、わかる通り実質対策としての効果がないという意見や工事に際して安全性や水鳥の保護を考慮に入れて欲しいという意見が出されました。

友の会の意見は改めて要望書としてまとめてあげ、県企業庁に提出することに決まりました。

（文責 東）



1984年春のいっせいカウント

1984年春の一斉調査が 4月29日に行われました。その結果のうち、浦安~行徳~原木のデータを集め、ここに掲載します。なお、この調査は シギ・千ドリ類の調査が目的なので、地図によっては、小鳥・ドバトなども記録しあがったところもあります。天候(曇~晴)

種名	行徳近郊緑地			浦安:千鳥	市川:塩浜	市川:砂越	江戸川:葛西	原木:佐井	備考
	新浜鳴場	鶴ヶ島	保護区						
	鳴 鶴 ヶ 島	站 池	鳥 類 調 査 區						
出現種数	37	5	34	9	16	12	29	16	10
総個体数	383	430	844	46	141	57	210	66	79
カツツブリ	1		1				2		3
カワウ			10		1				
ゴイサギ	60		1	1					
アマサギ			*						
ダイサギ	12		2			1	2	1	
コサギ	46		6			5	4		5
マガモ									
カルガモ	19	48	53	7	8	1	3		2
コガモ	37	283	131	8	2		2		9
ヨシガモ			3						
オカヨシガモ	2								
ヒドリガモ	5		192						
オナガガモ	4		16						
ハシビロガモ	2	97	2						
ホシハジロ				37					
キンクロハジロ				255					
スズガモ						4			6
コジュケイ	1								
キジ	6		2						
バン	18		1	3				5	
オオバン	8		1	1					21
コチドリ	12	1	1		13	1	6	2	
シロチドリ			10		52	26		1	
メタイチドリ			1		1				
ダイゼン			7				2		
キョウジョシギ				25				11	39
トウオン					8			1	
ウズラシギ?							?	1	
ハマシギ				5	2	1	110		13

(調査者) ハ・柴原正、鈴木晃太、森谷由己、中道正一
ロ・奥良(大輔)、枝口威(雄見基裕)、荒井秀一郎
ヒ・高木義守、長尾明子、角野淳
ロ・新喜益夫、赤田秀子(凜和) (鳴子司)

すずがも通信

	鷺場	北池	保護区	金魚池	浦安	塩浜	妙典	右岸	左岸	原木	備考
ツルシギ	13									2	1タ刻見られる
アオアシギ	*									6	
タカブシギ	1		1								
キアシギ	2										
イソシギ											
ソリハシシギ											
オオソリバンシギ											
チコウシヤクシギ	1										
タシギ	1										
ジシギ類											
セイタカシギ	6		3								
アゲハヒレアシギ											
ユリカモメ		10									
セグロカモメ		10									
コアシザシ											
キジバト	36	1	8	1							
ヒバリ		8									
ツバメ	16	4	1		10	2	2				
ハクセキレイ	1				2	4	23	5			
タヒバリ					8	2	8	3			
ヒヨドリ	5		6			5					
モズ	10										
ツグミ	2										
ツグミ類											
オオヨンキリ											
セツカ	2										
シジュウカラ											
カシラダカ	1										
アオジ	5										
カフラヒワ											
シメ	1										
スズメ	36				20	21	18	9	2		
コムクドリ	5										
ムクドリ											
オナガ	1				5	2					
ハシボングラス	2										
ハシブトグラス											
ドバト	4										
調査時間	9:00~12:40 11:00~12:45	11:10~11:25 13:10~11:45	11:25~14:00 ~11:45	14:00~15:00 ~11:45	12:15~13:30 ~15:00	12:15~13:30 ~15:00	11:00~15:30 ~15:00	14:00~15:30 ~16:00	14:30~14:10 ~14:10	13:00~	
調査者	A+B	A	A	B	(後)同左	同左	C	C	D	D	

すずがも通信



観察合便り

—鳥の国から—
○5月6日から約6週間 鳥のあまりの少なさにただただ涙！ カルガモもサギもコアジサシもゼーンぜんダメ。

期待のヨシゴイもほとんど姿を見せず夜中や早朝にヒクイナの声が時たま聞かれたのとがんばって鳴きわめいてくれたオオヨシキリ君たちがいささかの救い。 5月に雨が降らず北池がからかに干上ってしまったためもあるのでしょうか。 でもセイタカシギは2組ほどヒナを育つたようですがうち1羽が北池で保護されすぐ死亡餓死と思われる。 >何しろ6月始めのある日ひとりおり鳥の数をかぞえたら最大はスズガモの18羽だったのだ。

7月に入ってウミネコが目立ちはじめたのと同時にシギの数がぐんぐんふえてきました。 特にメダイ子ドリ8月9日109羽 ダイゼン8月6日23羽 オグロシギ8月8、9日103羽 キアシシギ8月9日213羽などは例年になく多いようです。 東京湾の満潮時休息のために入ってくるものが多いですが観察舎前の鐘ヶ瀬でも結構熱心に餌をとっています。 うれしいなあ！

○タカの仲間のミサゴが7月11日以来時おり姿を見せ大きな魚をさらって行きます。 8月10日にはハヤブサ若鳥も見られました 8月14日にはなんとチュウヒが姿を見せました羽などはぼろぼろであわねな姿でしたがシギやウミネコたちはもう大あわて。

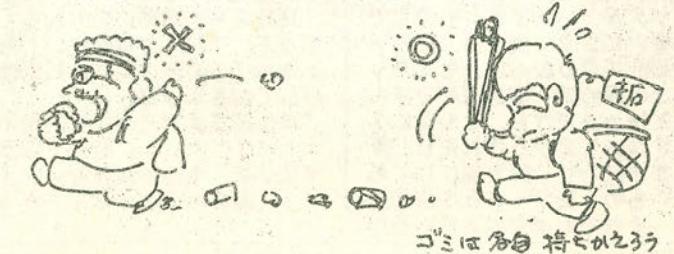
暑い暑い今年の夏休みですが鳥たちの世界では「今はもう秋……」です。 カモたちはいつくるかしら。

—野鳥病院では—

○8月11日9羽のハシボンミズナギドリを全部放しました。 5月末から6月すえごろにかけて東京湾岸のあちこちで次々に保護され入院した23羽の生きのこりです。（6羽は既に放鳥）どれも元気いっぱいよく食べよく喰いつきよくふとり……（しかし生幹の海鳥のかなしさ羽の状態が次第に悪くなっているのです）手入れが悪くなるの脂の分泌が変化するのか他に原因があるのかよくわかりませんが長く飼われたミズナギドリ類は最後には体がびしょびしょになって衰弱死してしまいます。 この日風に乗って飛去ったもの8羽 目の前で海に落ちて溺死したもの1羽。 飛んでいったものも着水したらたぶんぬれてしまい助からなかつたのではないかと思います。 でも半年後のふゆのさなかすりきれた羽のために凍死する運命を思うとあえて海に帰すふんぎりがつきました。

○今年はフクロウのヒナが相次いで3羽も入院しました。 いずれも小鳥屋で違法に巣からとられ飼われていたものです。 松戸から8月15日に来た2羽（フクチャンとロクチャン）は室内で放飼いし7月24日に外に出ました。 3日後から再び戻ってきて餌をたべるようになりました。 フクチャンは7月31日から戻らなくなりました。 ロクチャンはいまだに独立せず毎晩餌をたべにきて昼夜も研究室で眠っています。 うれしいなあ！

○8月3日に東金から来た1羽（ジュグチャン）は大野町の荒井俊光さんが見るに見かねて貰いとてこちらの翼が折れていて野外復帰はむずかしそうです。 ケージの中で新聞紙をひきざいで遊んでいます。 フクチャンがいなくなつてさみしいロクチャンにとって良いお仲間のようです。（蓮尾純子）



野鳥紳士録 No.5
○コガモー鶴達は冬の使者として有名ですが 実は早いものはもう八月下旬には渡って来るのです。茶色の頭に緑のアライインも美しいコガモも八月下旬には姿を見る事ができるでしょう。漢字では「小鶴」とかきます。日本で遅く普通に見られる鶴の仲間の内 最も小さい種類の鶴です。英名を「Green Winged Teal」。Tealはオランダ語のteelingから来ています。意味は「ヒナ鳥」という様な意味で体が小さいので こう呼ばれる様になつたのでしよう。学名は「Anas crecca」。属小名のAnasはラテン語のanas(カモ)が語源です。種小名のcreccaはコガモの鳴声を寫したもので、水上に浮かぶコガモの体側には白と黒の線が見られますがこの羽根は一枚に白と黒の色分けがきっちりとされていて それは美しいものです。これから時期はコガモに混じってシマアジ等も見られることがあります。シギやチドリも移動を始めるでしょう。足繁く観察舎へ通つて季節の移ろいを貴方の目で確かめてみてはいかがですか。



○トウネンー春の渡り 小意気な赤さび色の混ざったブレザー姿で保護区を訪づれたトウネン君。今度はシックなグレイのブレザーに着換え 間もなく保護区を 訪づってくれるでしょう。漢字では「当年」。とても小さいシギで昔の人はトウネンが今年生まれのシギで一年毎に大きく成長し他のシギになると考えました。それで「当年」と呼ばれるそうです。英名は「Rufous Necked Stint」。Rufousは赤褐色のという意味です。Stintはshorten(短くなる)が語源で やはり他のシギよりも小さいのでこう呼ばれる様になつたそうです。学名は(Calidris ruficollis)。属名のCalidrisはギリシャ語のkalidris=sakalidrisが語源です。sakalidrisはツルハシという意味で を指します。種小名のruficollisはラテン語のrufus(赤)が語源で赤い頸のという意味です。トウネンもここ数年の観測來数が減つてきています保護区内に鳥達の住み良い環境を作る為に皆さんの御恩恵を御借し下さい。

荒井 八太

参考図書
「鳥の学名」 内田 清一郎著
ニューサイエンス社
「野鳥の辞典」 潤櫻 幸保著
東京堂 出版

『ちよつと これ お目にかけようと思つて』 7月15日(日) 土砂ぶりの雨の中 バケツをさげて入って来られたのは 大野町の荒井後光さん。
ハケツの中は 何と捨てられた釣糸でいっぱい。くしゃくしゃにもつれたものから 箱にまいたもの 針やおもり中には青イソメがついたままのものまで透明 赤 青 ピンク 黄 黒 緑……全部合わせると 1000本以上にもなりました。この日の朝 塩浜海岸でほんの1時間ほど拾つただけで こんなに!
釣糸が巻きついで足がちぎれたり 嘴が半開きのままになり 飼を前にしても食べられないもの 質がくさって白骨化してしまい それでもまだ生きているウ

ミネコ……釣糸による鳥の事故は思つたよりもはるかに多く 悲惨です。自分だけは空カンや釣糸を捨てない ルールをきちんと守るという心構えに加えて野外に出た時は必ず何どかのゴミを捨つて帰るといった積極的(攻撃的)な姿勢が必要なのではないでしょうか。

荒井さんの活動に協力してくださる方どうぞ 下記へご連絡を。なお このなお この時の釣糸は観察舎一階に展示しておきました。

“市川港塙浜岸壁の放棄釣糸から
野鳥を守る会”

4月の鳥の記録 1984

種名	記録日数	最高数	最高数記録ほか	種名	記録日数	最高数	最高数記録ほか
カイツブリ	27	5	4/10, 20	アカヒヒシアシ	1	5	4/29
カワウ	24	11	4/7	ユリカモメ	19	1000	4/20
ゴイサギ	17 ¹¹	30	4/25	セグロカモメ	20	55	4/12
ダイサギ	23	4	4/28, 29	ウミネコ	7	2	4/5
コサギ	26	25	4/6	コアジサシ	4	3	4/24 初認
アオサギ	16	4	4/24	ドバト	27	17	4/24
マガモ	10	16	4/8	キジバト	20	2	4/24
カルガモ	28	79	4/7	ヒバリ	9 ²		
コガモ	28	267	4/3	ツバメ	12 ³		4/10, 18, 20
シガモ	20 ¹¹	13	4/8	ハクセキレイ	10 ¹		
イカヨシガモ	11	6	4/8	タヒバリ	2		4/6
ヒドリガモ	28	960	4/2	ヒヨドリ	21		
アメリカヒドリ	7	4	4/8	モズ	3 ⁴		
オナガガモ	26	23	4/17	ジョウビタキ	+1		4/3 水浴
ハシビロガモ	20	30	4/29	アカハラ	+3		4/11, 23, 23
キンクロハジロ	16	91	4/10	ツグミ	9 ⁵		4/30
スズガモ	25	640	4/26	ウグイス	2 ²		4/15, 17, 22
トリ	9	1	4/15 終認	オオヨシキリ	1		4/29 初認
オオタカ	+1	1	4/7	セッカ	5		4/23 初観
チュウヒ	14	2	4/27 終認	シジュウカラ	8 ³	3	4/7, 8, 4/6 初観
サシバ	1	2	4/15	カシラダカ	+1		4/22
コジケイ	7 ²	1		ホオジロ	2 ¹		4/7, 12, 22
キジ	21	6	4/18	アオジ	7 ³		
バン	25	3	4/7, 10	オオジュリン	3 ²		4/22 終認
オオバン	+3	1		カワラヒワ	1 ¹		
コキドリ	24	5	4/11	スズメ	28	17	4/7
シロチドリ	27	7	4/24	コムクドリ	+1	5	4/3
メダイチドリ	6	5	4/28: 4/15 初認	ムクドリ	13		4/11
ダイゼン	24	5	4/22	オナガ	3		4/11
キョウジョシギ	5	6	4/20: 4/18 初認	ハシボソガラス	19		4/7
トウネン	12	9	4/24: 4/10 初認	ハシブトガラス	4		4/23
ハマシギ	14	18	4/26				
ツルシギ	7 ¹	2	4/21, 25, 29				
イソシギ	7 ¹	3	4/8				
オオソリハシシギ	5	2	4/18: 4/10 初認				
チュウヤクシギ	1	3	4/22: 4/22 初認				
タシギ	1 ²	2	4/17				
オオジシギ	+2	8	4/22, 4/22 初認				
セイタカシギ	9 ²	5	4/14				

春が遅かったにもかかわらず、4月半ばになってシギたちが次々と現われ、千羽鳥が急ににぎやかになったようです。もっとも、あいかわらず、個体数はいま2つ! コアジサンも昨年より4日遅れて現われました。

カモ達がいなくなるのは、来月でしょうか。
(まとめ 荒井秀一郎、百瀬邦和)

行事案内

○新浜自然観察会

9月9日 10月14日 11月11日

集合：東西線行徳駅前 午前10時

解散：野鳥観察舎 午後2時半頃

わずかに残されている 妙典地区の湿地
や保護区で カモ サギ カモメ バン
などの水鳥を中心に動植物の観察をしま
す。 (午前中は江戸川放水路 妙典の観
察をして 午後は保護区の中に入れてい
ただく 予定です)。 お弁当 水筒
雨具 ポウシ等おわすれなく。

○定例 園内観察会（観察舎主催）

9/2 9/16 10/7, 21

集合：野鳥観察舎前 午後1時半

解散：“ ” 午後4時頃

園内の観察路を約1.5km程歩きます。
歩きやすい はきもの 服装でどうぞ。
ボウシ必携のこと。

○虫の声とネグラ探鳥会

9月 23日

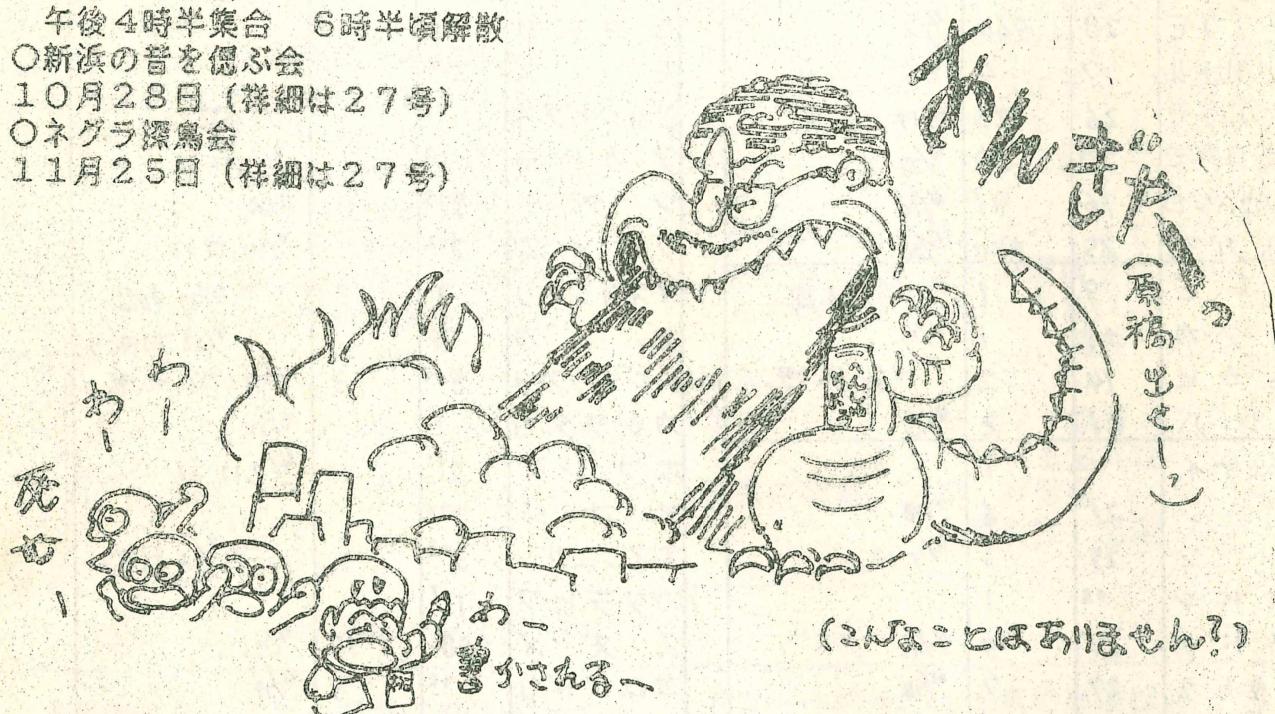
午後4時半集合 6時半頃解散

○新浜の音を偲ぶ会

10月28日 (詳細は27号)

○ネグラ探鳥会

11月25日 (詳細は27号)



-事務局より-

今年度の会費を納めて下さい。一般会員1000円 賛助会員2000円以上
ジュニア会員500円です。観察舎でお金を預ってもらいます。

その他 絵はがき シール 鳥のマスコット 鳥の図鑑なども販売しています。

編集後(慌)記 やっとすすしくなりました。今夏の蓮(妙典)はとてもきれ
いでいた。それ蓮を含めた湿地は残していきたいたいものです。原稿、資料
などをお送り下さい。(はるたか)

・暑い夏でした…けれどシギチも渡って来て秋も間近です。み符たせしました26号(26)

すずがも通信	発行人 龜谷 栄	
No.2	事務局 鈴木 有方	
1984年9月1日発行	編集人 田久保 晴孝	
振替仙台2-6129	新妻 途夫	
年会費1000円	行徳野鳥観察舎〒272-0市川市福宗4-22-11	電